

MUFGの強み

2026年1月

世界が進むチカラになる。



本資料には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下「当社」という）およびそのグループ会社（以下「当グループ」という）に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、統合報告書、ディスクロージャー誌、アニユアルレポートをご参照下さい。

なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに隨時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本資料の計数は日本会計基準ベースの数値（本邦の管理会計基準を含む）を使用しています。

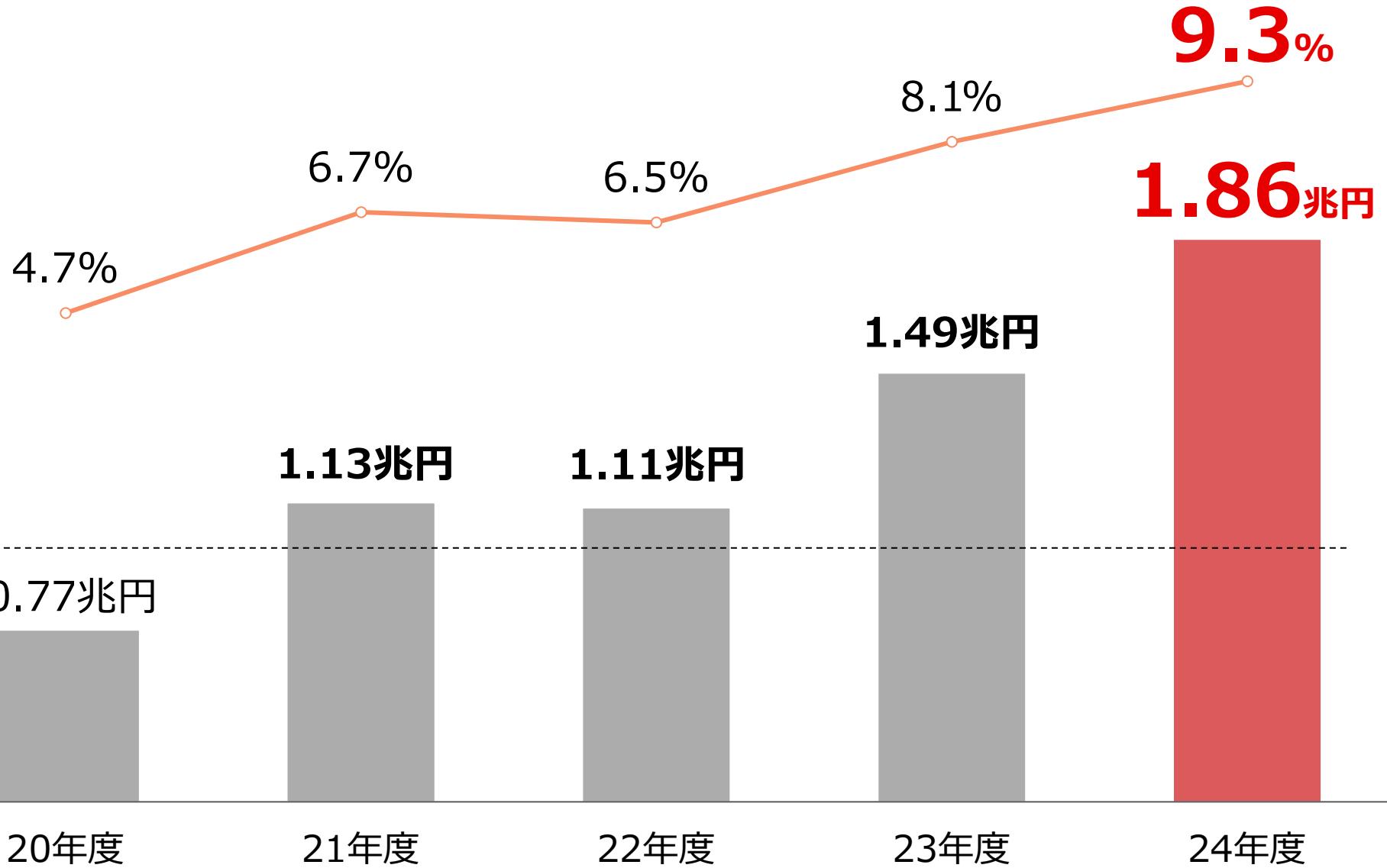
第一章 MUFGのこれまで	4
第二章 MUFGの“ならでは”	10
第三章 MUFGのこれから	23
第四章 MUFGの株主になつたら	30
おわりに	34
Appendix	36

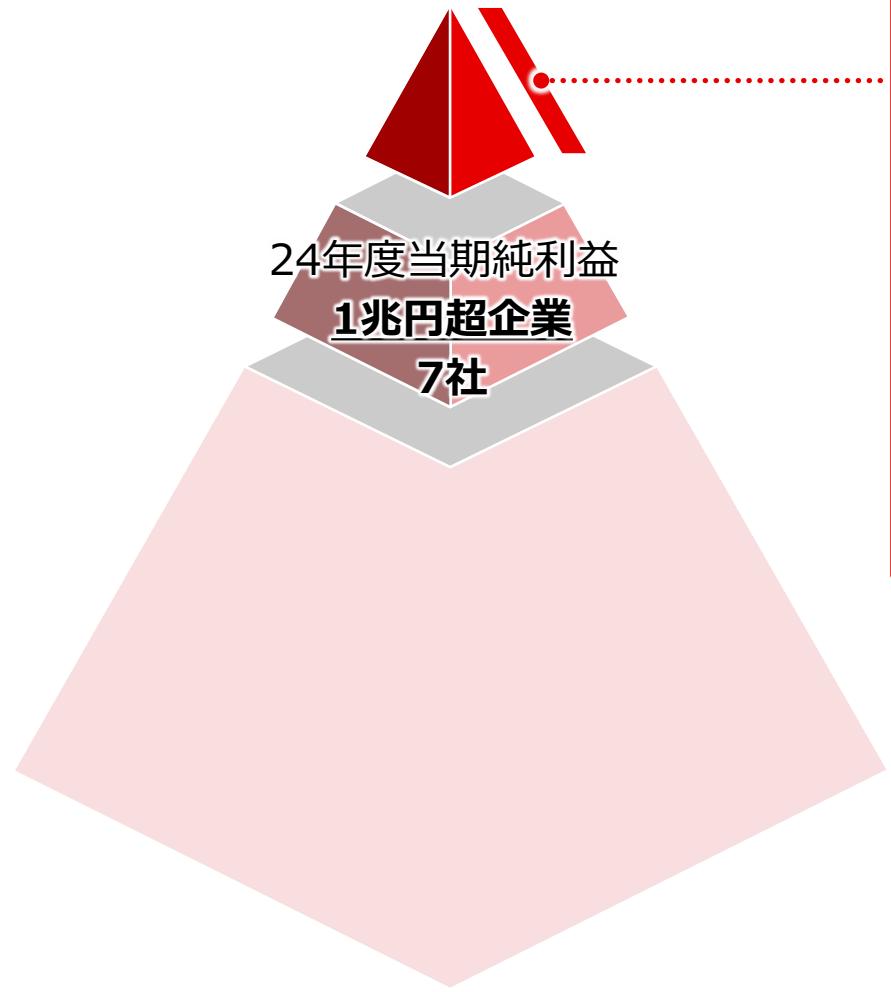
MUFGのこれまで

■「MUFGのこれまで」のキーワード

「2期連続 最高を更新」

■ 親会社株主純利益とROE（東証定義）の推移





▶ 2期以上連続当期純利益
1兆円超企業

3社



… **MUFG**

(4期連続*1 1兆円超)

(出所) Bloomberg

*1 2021–2024年度決算4期連続 *2 2025年8月29日時点の東証プライム上場企業数

事業ポートフォリオの多様化により、稼ぐ力は大きく向上

主な戦略 出資案件

MS

アジア商業銀行



A member of MUFG

アジア×デジタル

デジタル



AM/IS

First Sentier
Group



MPMS^{*1}

(兆円)

2.0

1.5

1.0

0.5

0.0

-0.5

-1.0

本邦
政策金利



*1 MUFG Pension & Market Services Holdings Limited *2 管理計数。06年度対比の増減額 *3 銀行、信託、ニコス、アコムの合算値。銀行、信託のみ子会社配当金を除く

*4 銀行、信託、MUAH、KS、BDIの合算値。銀行、信託のみ子会社配当金を除く *5 22年度以降は投信解約益を調整 *6 24年度の構成粗利益は、KS決算期変更影響を除く

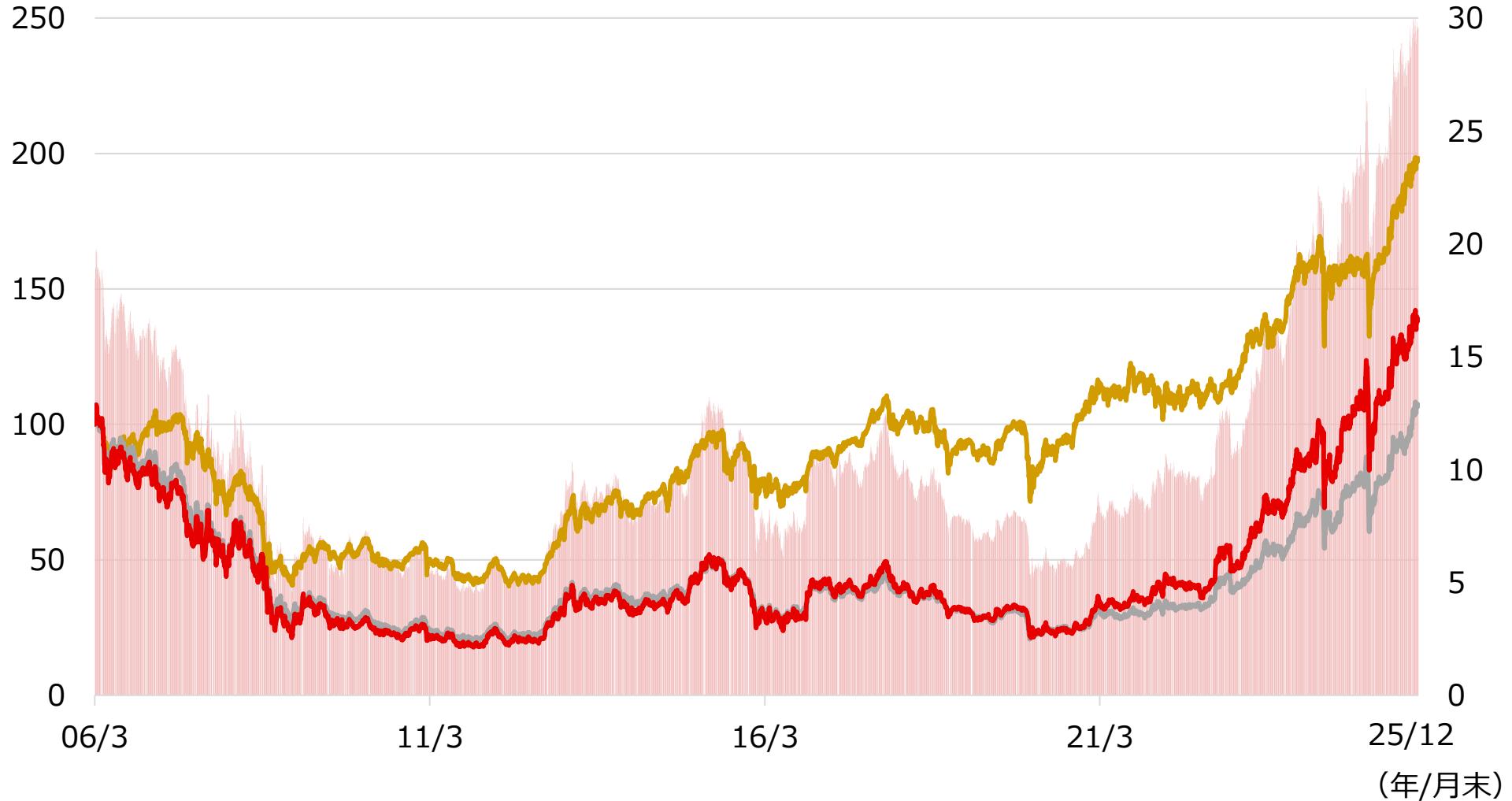
一方で、長尺で見るとまだまだTOPIXに追いついていない

(左軸) 2006年3月末株価終値=100

TOPIX TOPIX銀行業 MUFG

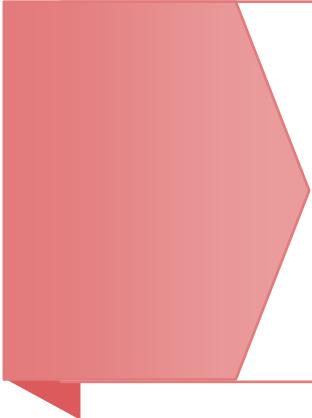
(右軸) 兆円

MUFG時価総額



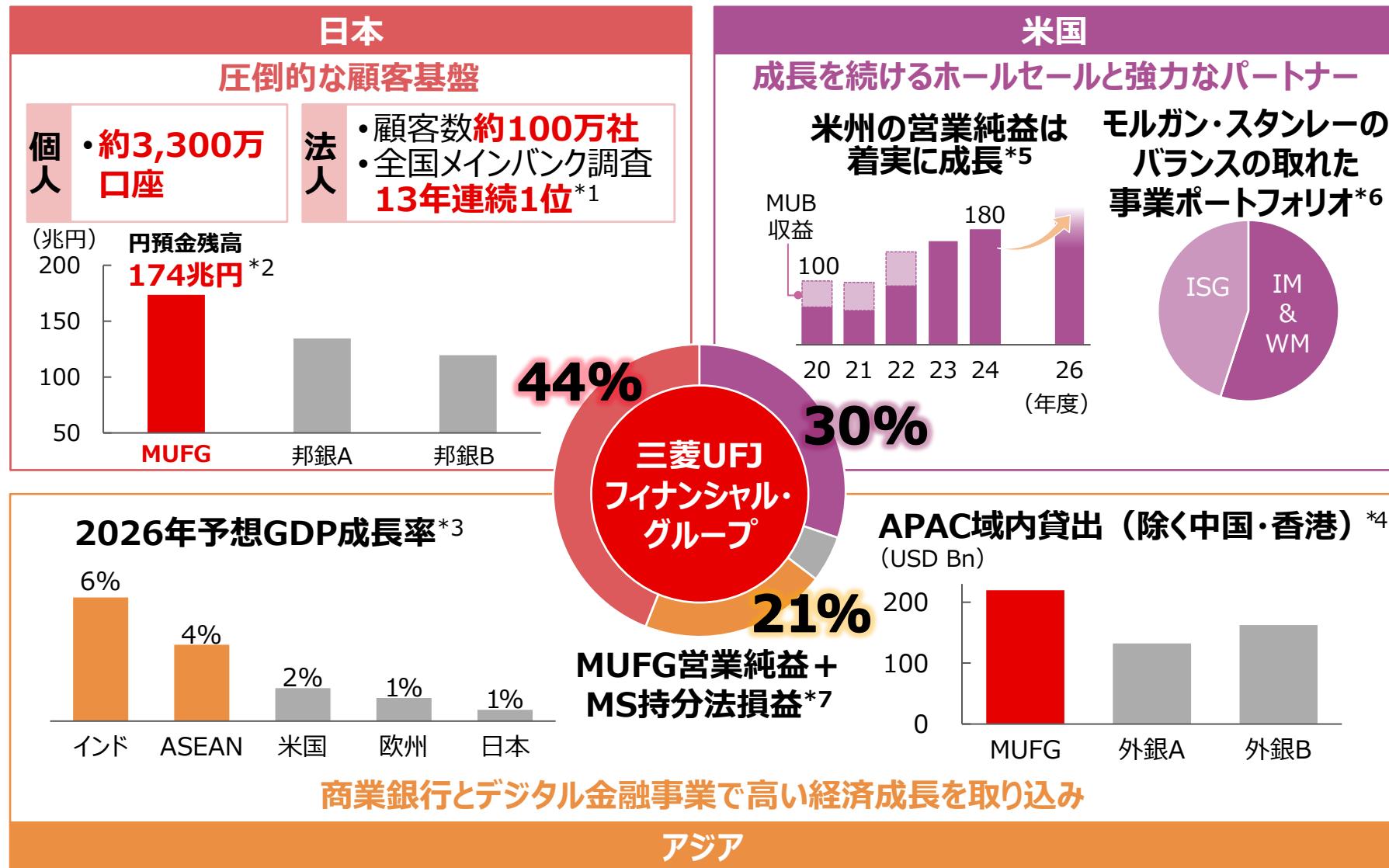
MUFGの“ならでは”

■「MUFGの“ならでは”」のキーワード



「X : 3 : 2」

MUFGの成長を支える事業ポートフォリオ



*1 (出典) 東京商工リサーチ25年「企業のメインバンク」調査 *2 MUFGは2行合算。他社は25年9月末時点で開示されている円貨または国内預金残高をもとに当社作成

*3 (出典) IMF「World Economic Outlook Database, April 2025」 *4 MUFGはPB含む。他社は25年3月末時点の各社開示資料より当社計算 *5 20年度実績を100とした計数

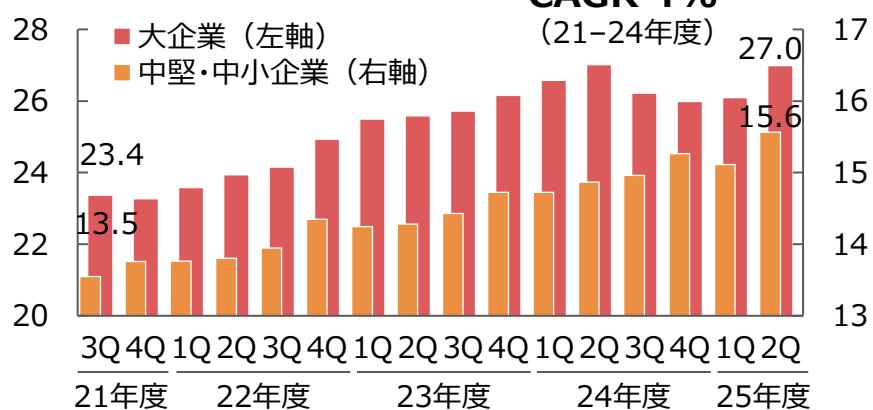
*6 粗利ベース ISG : Institutional Securities、IM : Investment Management、WM : ウエルスマネジメント (出典) MS Earnings Results *7 24年度の管理計数

法人貸出・手数料収益

国内法人向け貸出残高・利ざや

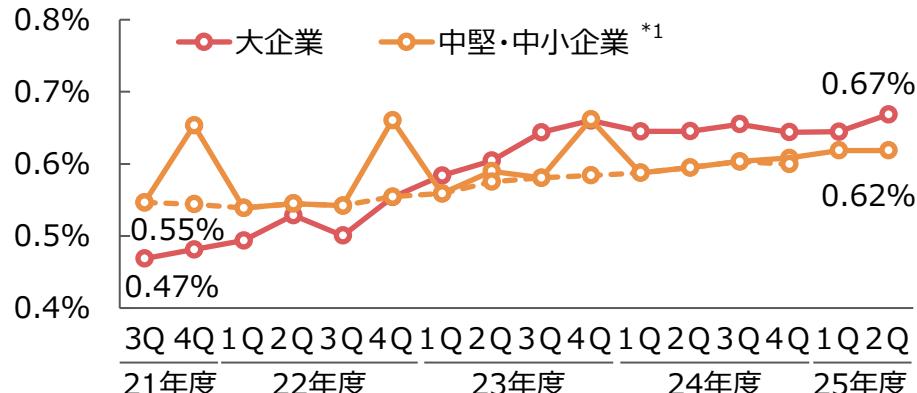
国内の資金需要を捉え、残高伸長

国内法人向け貸出残高（平残／兆円）



M&AやLBOファイナンスの増加により利ざや改善

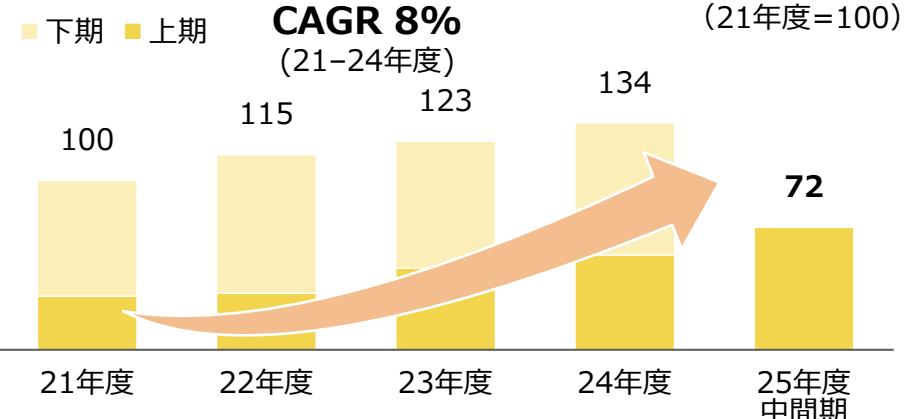
国内法人向け貸出利ざや



*1 破線は、期末の利子補給一括計上への影響除き

手数料収益の伸長

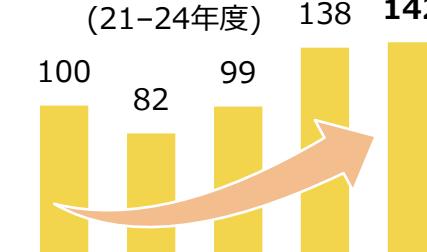
高付加価値のソリューション提供により、稼ぐ力向上



M&Aや不動産ファイナンスの領域で案件を積み上げ

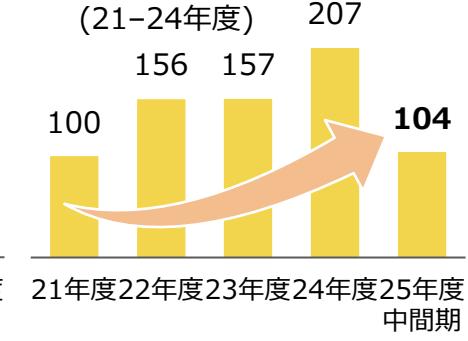
M&Aファイナンス

CAGR 8% (21-24年度)



不動産ファイナンス (21年度=100)

CAGR 20% (21-24年度)



「エムツト M」のリリース

便利で見やすくなった「三菱UFJ銀行アプリ」



身近でおトクなポイントアッププログラム

業界最大級のポイント還元率

特定加盟店で
常に **7%** 還元

条件達成時
最大 **20%**

業界最大級の特定加盟店数

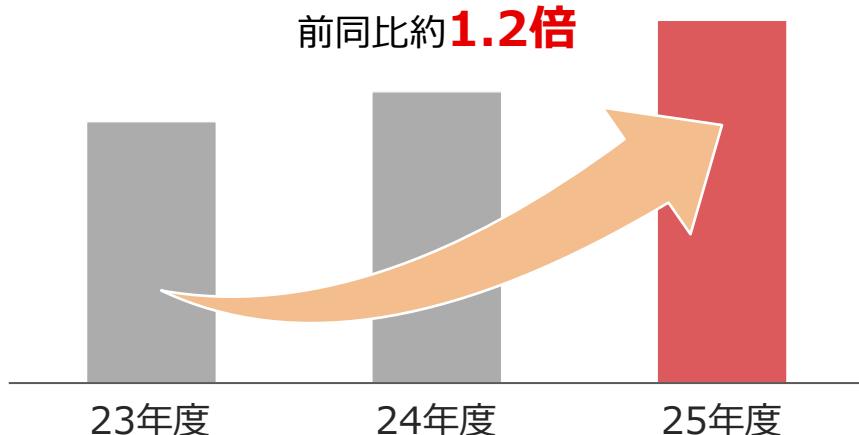
合計 **30** ブランド



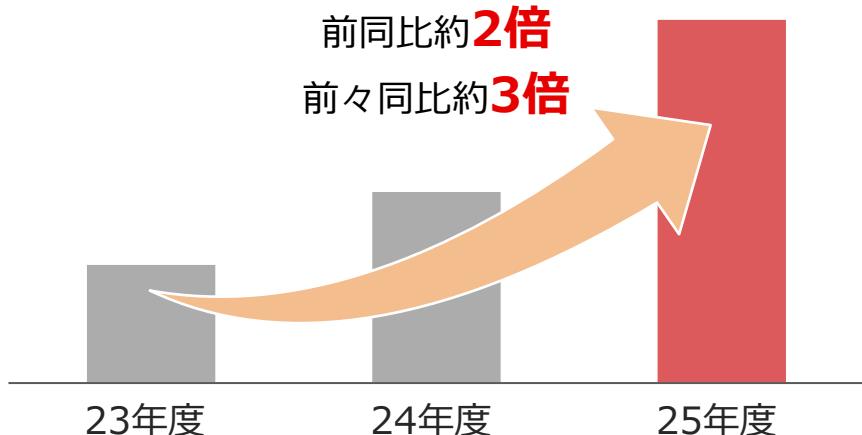
「エムット M」リリース後の反応

クレカ申込時の口座セット率はエムットリリース後、**1.7倍^{*1}**と向上

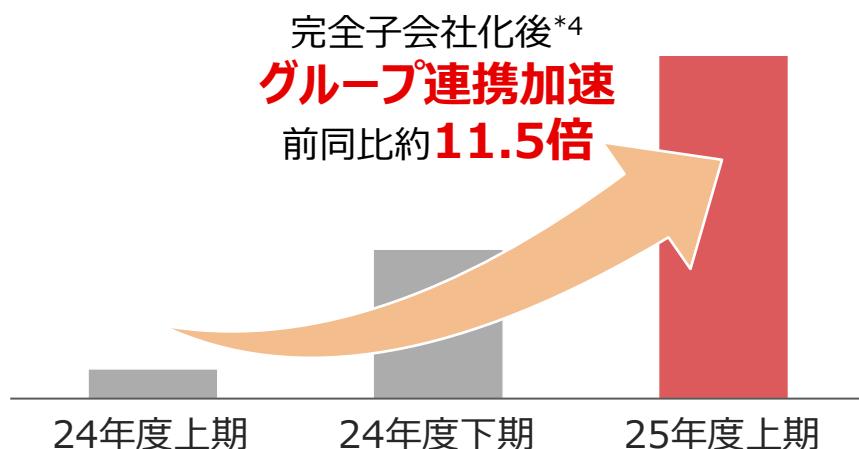
新規口座開設数^{*2}



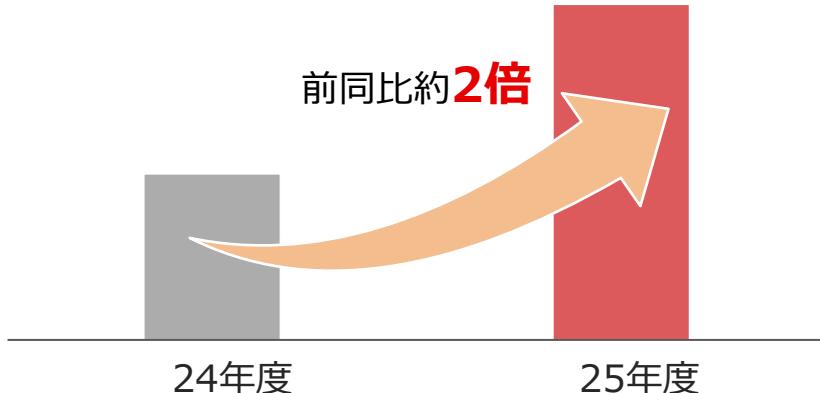
カード発行数^{*2*3}



eスマート証券仲介口座開設数



「WN for 三菱UFJ銀行」^{*5}における口座開設数^{*2}



*1 ニコスのWebチャネルにおける申込

*5 WealthNavi for 三菱UFJ銀行

*2 エムットリリース後期間（6月～9月）の比較

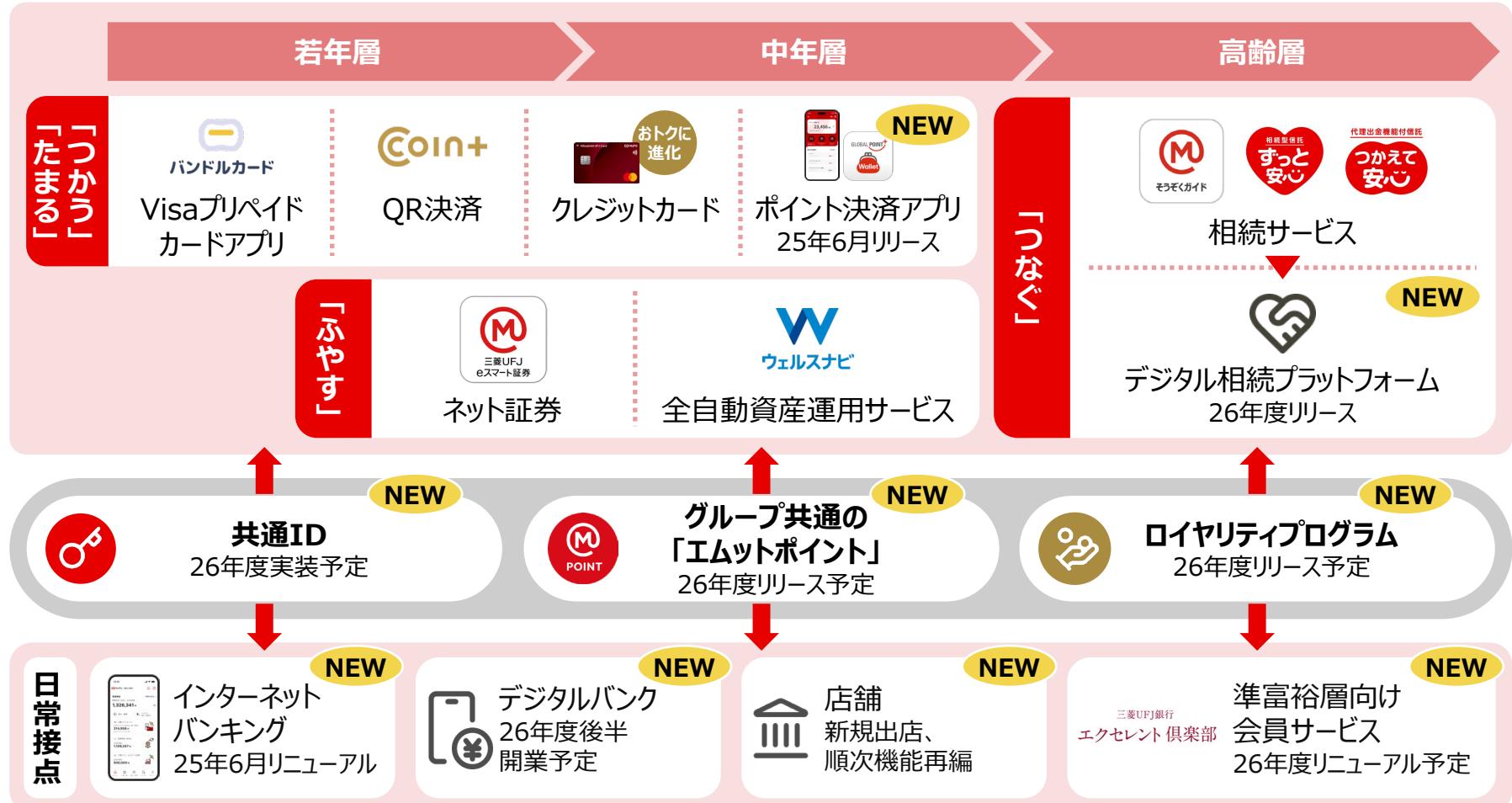
*3 三菱UFJカード等の発行枚数

*

4

2025年1月31日

「エムットM」のこれから



エムットはお客様の体験起点でお金にまつわるすべてをサポートする「ライフステージ総合金融サービス」

リテール領域における新しい顧客体験の創出・検討

顧客体験の進化

OpenAIのソリューションをMUFGに導入^{*1}

AIコンシェルジュ in MUFG Apps



- ・ MUFG各社のアプリにGPT最新モデルを実装
 - ・ 各アプリのAIがシームレスに連携し、一人別の提案・回答

エムット申込専用AIチャット



- AIレコメンデーションとAIチャットを通じて、MUFG各社の口座開設やサービス申込をまとめてサポート

顧客体験の進化

MUFGのサービスをOpenAIのEcosystemに連携*1

顧客タッチポイント拡大

Agentic Commerceへ対応^{*2}

Apps in ChatGPT連携

Instant Checkout ^{*3}



- ・コマース規格Agentic Commerce Protocol準拠の決済手段提供で、ChatGPT上で新しい購買体験を実現

入出金・振込 データを分析



- ChatGPTとの対話の流れの中で、家計簿管理や資産運用等の相談を自然に行える新しい金融体験

*2 AIエージェントと企業がスムーズに取引を完了できるようするオープンスタンダード

*3 ChatGPT上で商品の検索から購入まで完結できるサービス。対応している製品は「Buy (購入する)」をタップし、注文、配送、支払いの詳細を確認後そのまま購入可能。

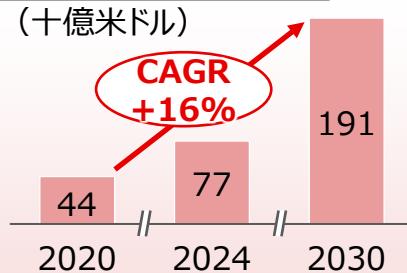
米州での強み

米州の事業環境

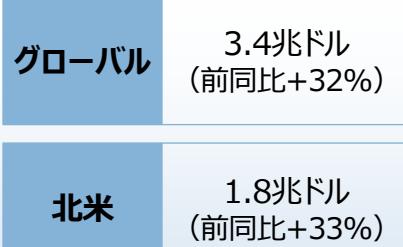
旺盛なデジタルインフラ需要



DC向け新規投資額予測*1



M&A需要の回帰*2



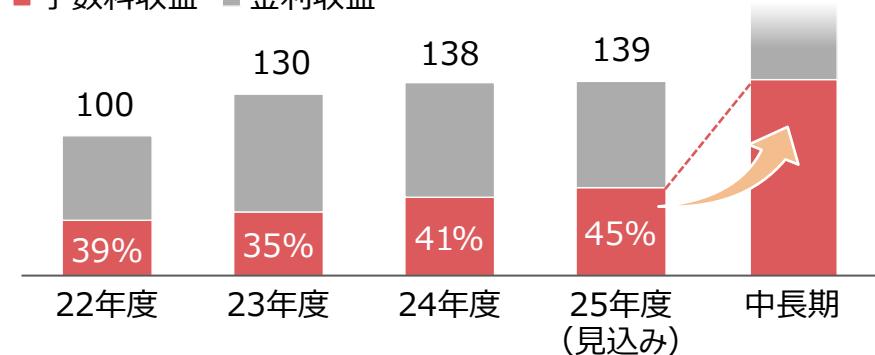
モルガン・スタンレーとの協働の深化も通じ、需要を捕捉

米州ビジネスの推移

米州粗利*3

(22年度=100)

■手数料収益 ■金利収益



プロジェクトファイナンスのプレゼンスは圧倒的

マンデートアレンジャー（米州）*4

(十億ドル)

20

15年連続
1位

10

0

MUFG

SMFG

みずほ

x1.4倍

x2倍

*1 Deals Business Intelligence (出所 : LSEG) よりDC向け融資かつプロジェクトファイナンスのアレンジメント総額を推計 *2 (出所) Dealogic, Cortex (2025年9月30日時点)

*3 米ドル建ての管理計数を相対化。22年度はMUB売却勘案後の暫定計数 *4 24年度 (出所) LSEG

モルガン・スタンレーとの提携

MS協働の深化・拡大

- MSとのJoint Marketingを通じ、グローバル大型案件を実現

協働先
約400社

グローバル投資銀行業務



AIデータ
センター設備
投資資金

USD 2.6Bn



JDE Peet's
社
買収

EUR 16.2Bn



Iveco
グループ
買収

EUR 3.8Bn

ローン共同主幹事

MS : M&Aアドバイザー

- それが強みを持つマーケットで互いの運用商品を販売

国内

MSIM^{*1}
米国株ファンド^{*2}
MUFGが販売

新規公募投信
当初設定額
25年 Top10

海外

MUAM
日本株ファンド
MSIMが販売

資産運用残高
2年で約5倍

受財

市場

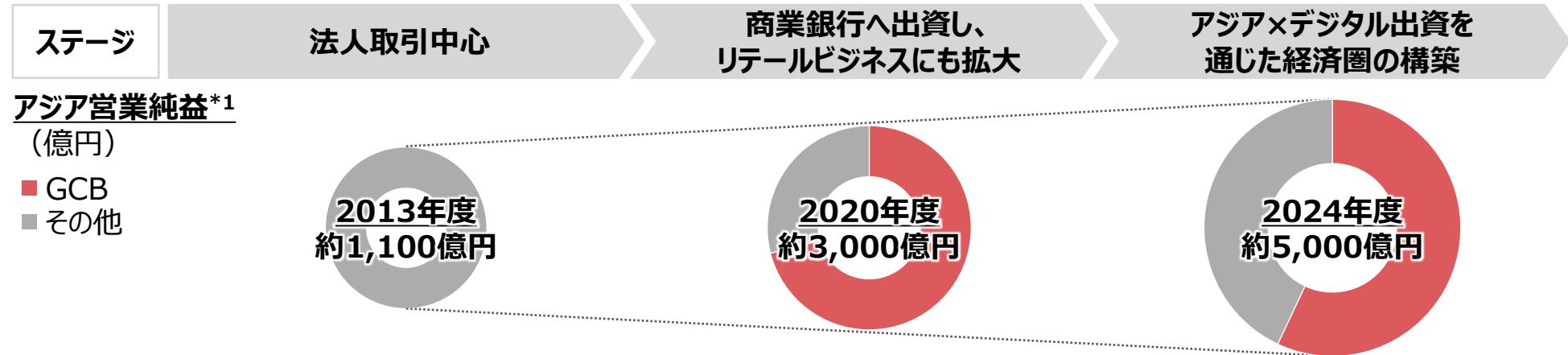
WM

- プライベートクレジット新会社^{*3}の業務開始・同領域における協働深化

- MS知見を活用しアドバイザリー型モデル高度化・MUFG@Work推進

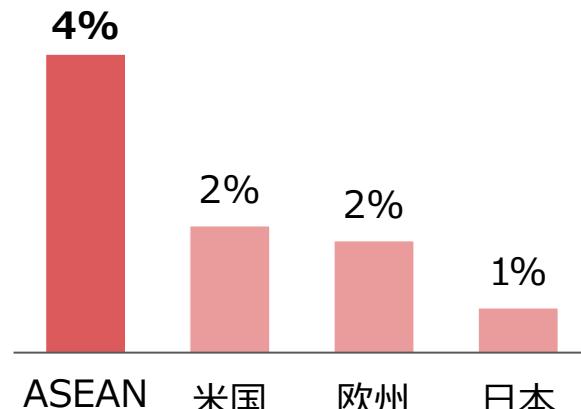
アジア戦略

MUFGのアジア戦略は事業ポートフォリオの多様化により、形を変えながら成長してきた

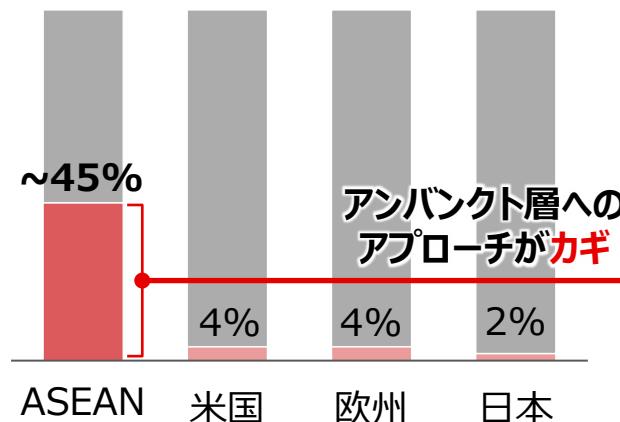


アジアの高い経済成長を取り込むには…

2026年GDP成長率予測*2



アンバント層の割合*3



24年度

主要デジタル
決済プレイヤーに出資

ascend
money

タイの10人に7人が利用

mynt
finance for all

フィリピンの10人に8人が利用

*1 管理計数。13年度と20年度、24年度はそれぞれ異なるレートを使用。20年度と24年度は為替変動による増加影響を含む。24年度はKS決算期変更影響除き

*2 出所：IMF *3 出所：Global Findex, Global Finance

インドでの戦略

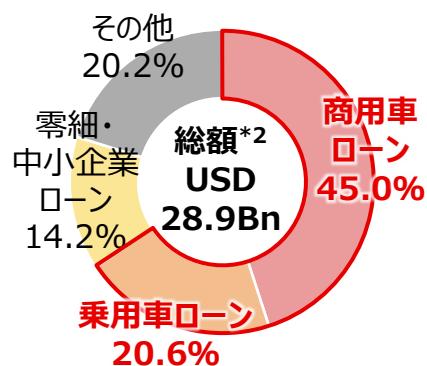
インド大手ノンバンクShriram Finance社へ出資



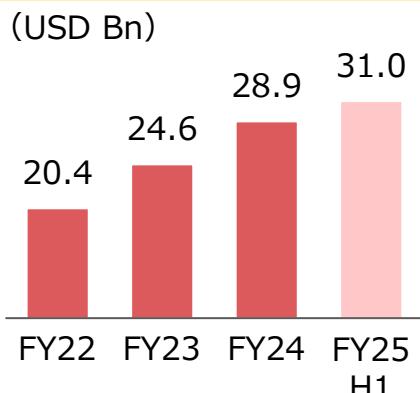
Shriram Finance社とは?

- ・インドで第2位の貸出規模、当期純利益、時価総額のリテールノンバンク
- ・中小零細企業や個人事業主向けの車両ファイナンスを通じ、インドの社会インフラ・ロジスティクス基盤を支援
- ・運送事業者と草の根のリレーションを数世代に亘り構築し、ブランドはインド全域で浸透
- ・ROEは安定的に15%以上を維持

貸出残高の商品別内訳*1



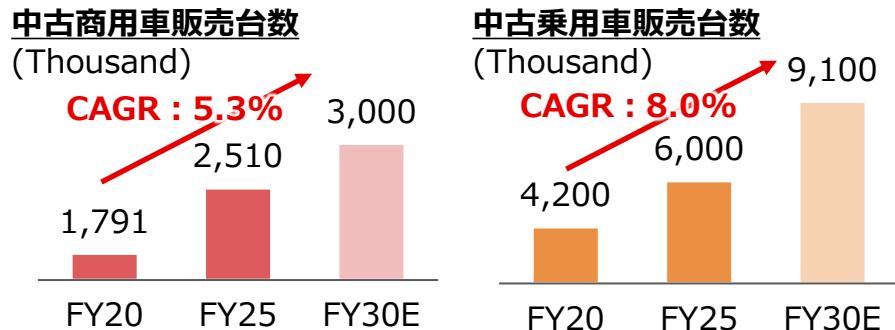
持続的な貸出残高拡大*2



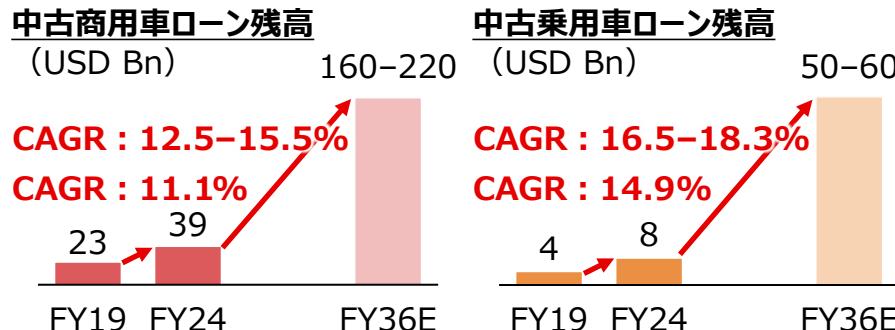
インド市場の成長性



中古商用車・乗用車販売台数予測*3



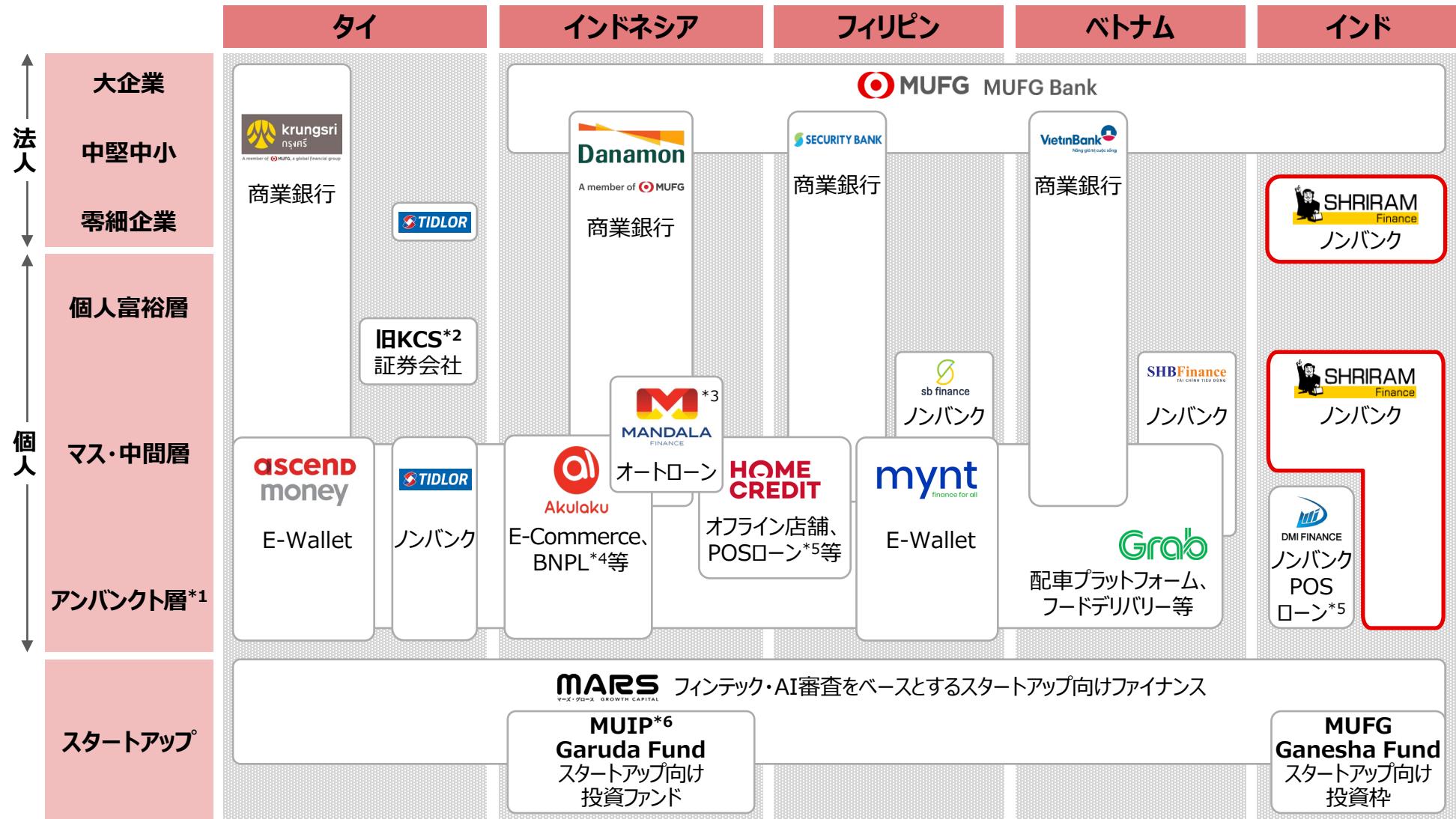
中古商用車・乗用車貸出の残高推移*3



*1 2025年3月31日時点

*2 3月期決算 *3 (出所) JETROレポート、第三者調査機関による調査結果をもとに当社作成

MUFGのアジアフランチャイズ



*1 銀行口座を持たない顧客層 *2 Krungsri Capital Securities (旧社名: Capital Nomura Securities) をKrungsri Securitiesに事業譲渡後、PATTANASIN Plus (1970) へ社名変更

*3 2025年10月1日付でPT Adira Dinamika Multi Finance Tbkとの合併完了 *4 Buy Now Pay Laterの略。商品の購入代金を後日支払う決済方法

*5 Point of Saleローンの略。耐久財の販売店などでの商品購入時に提供する割賦ローン *6 三菱UFJイノベーション・パートナーズ

MUFGのこれから

■「MUFGのこれから」のキーワード

「初の挑戦～更なる高みへ～」

2025年度業績目標と中間期までの進捗

親会社
株主
純利益
目標

2兆 **1,000** 億円

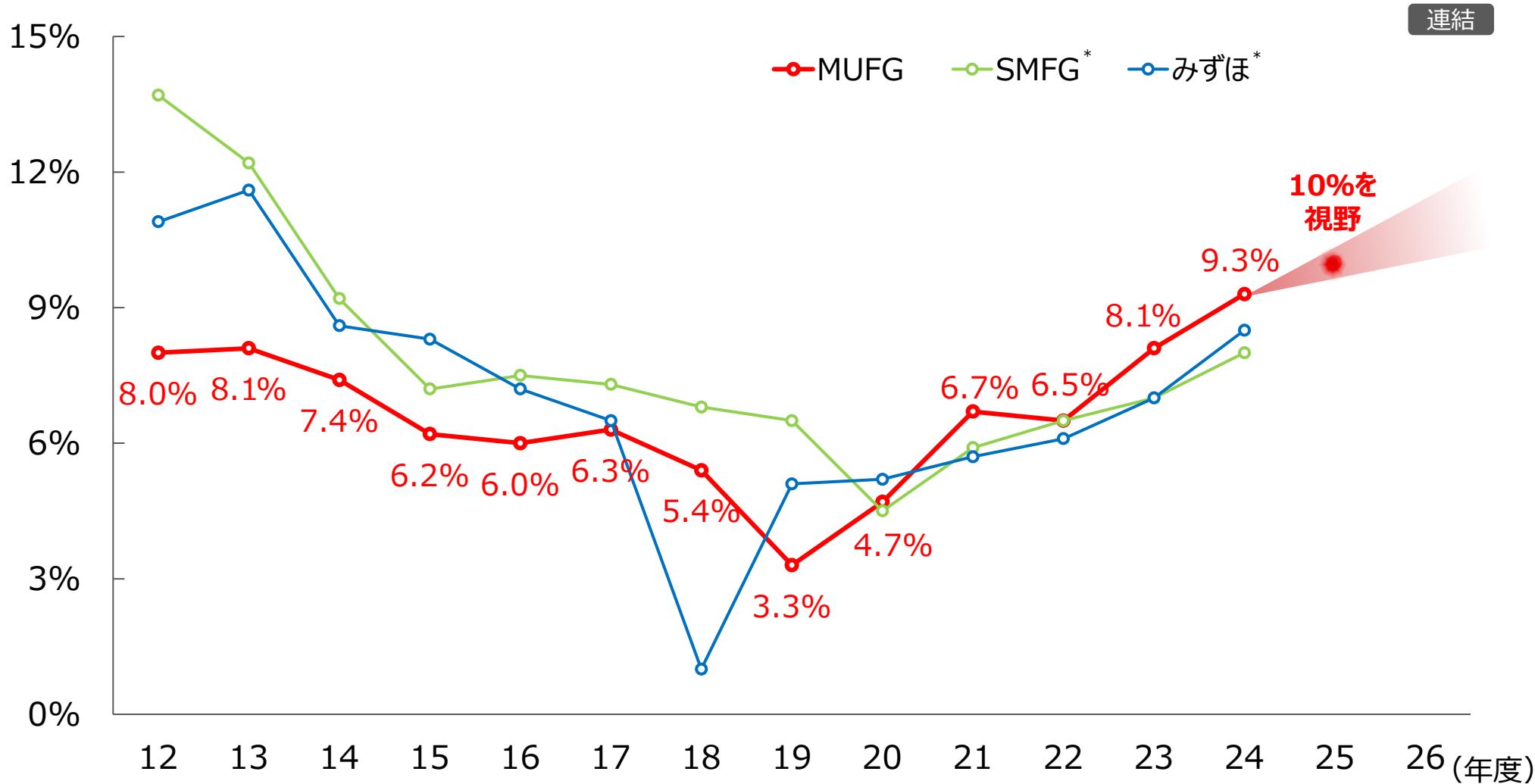
期初目標比 **+1,000** 億円
前年度比 **+14%*1**

MUFG連結（億円）	実績	25年度中間期		業績目標
		25年度	期初目標比	
1 業務純益	12,870	22,500	+500	
2 与信関係費用総額	▲763	▲3,500	+0	
3 経常利益	17,466	30,000	+1,500	
4 親会社株主純利益	12,929	21,000	+1,000	

*1 24年度より連結時に計上するKSの決算期間を従来の1-12月から4-3月へ変更した影響は除く

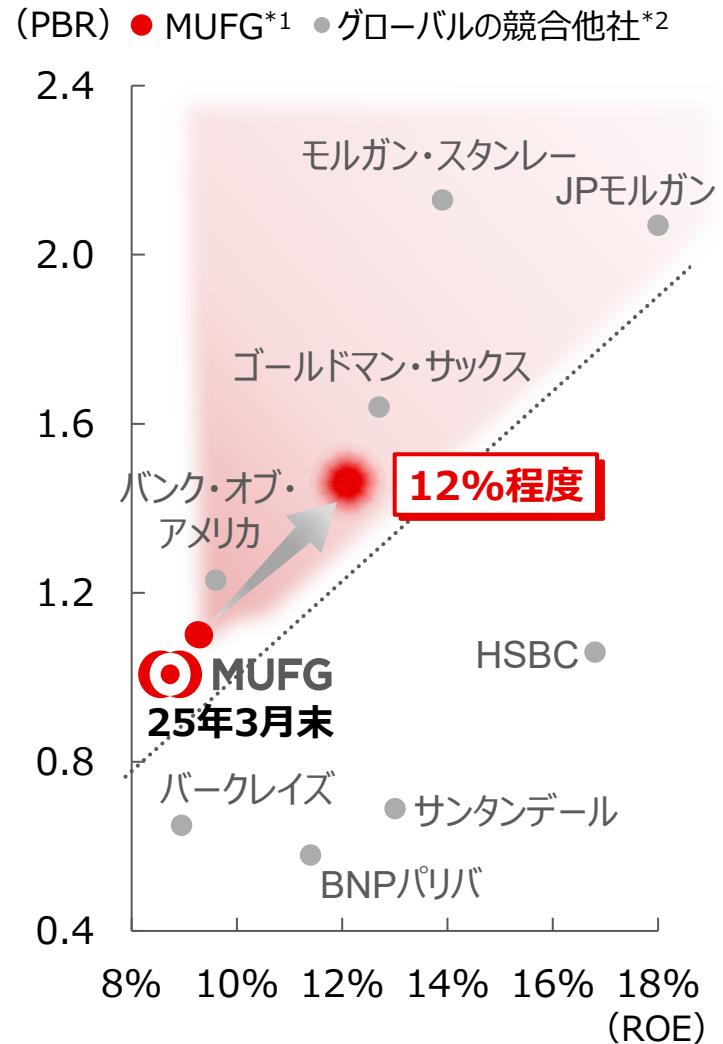
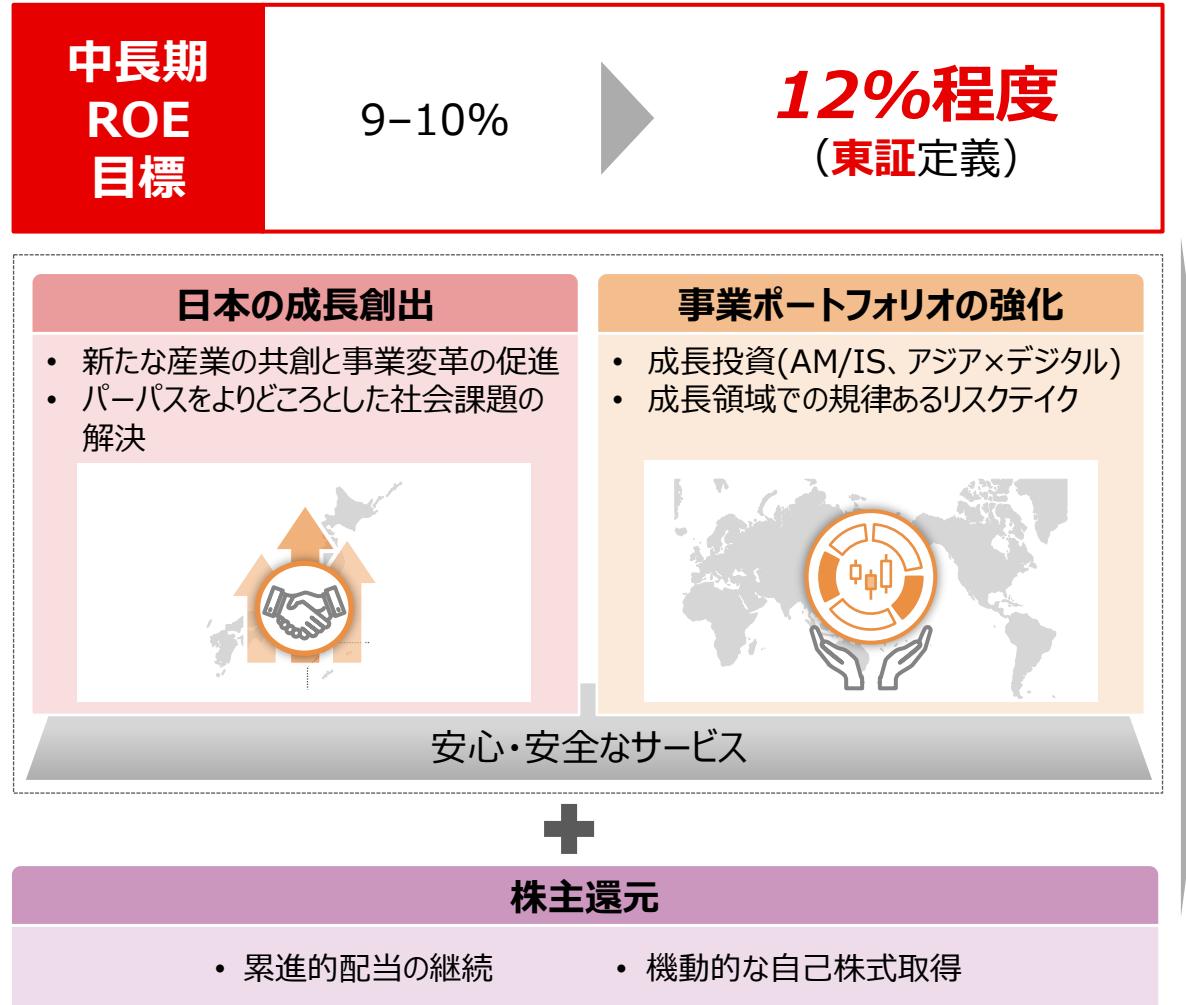
ROE (東証定義)

連結



* (出典) Bloomberg

中長期ROE目標の見直し



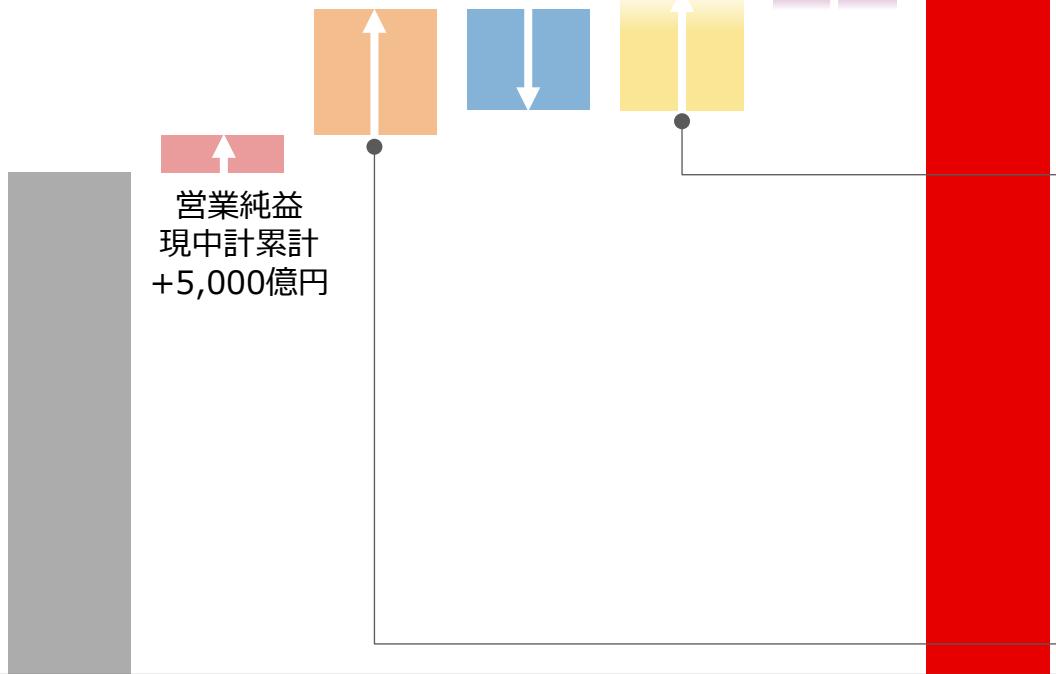
*1 ROEは東証定義 *2 2024年12月末時点 (出典) Bloomberg

中長期ROE目標12%程度への道

利益（税前）の成長イメージ

前提条件

- ・本邦政策金利：1.0%程度
- ・政策保有株式の削減による売却益：無し

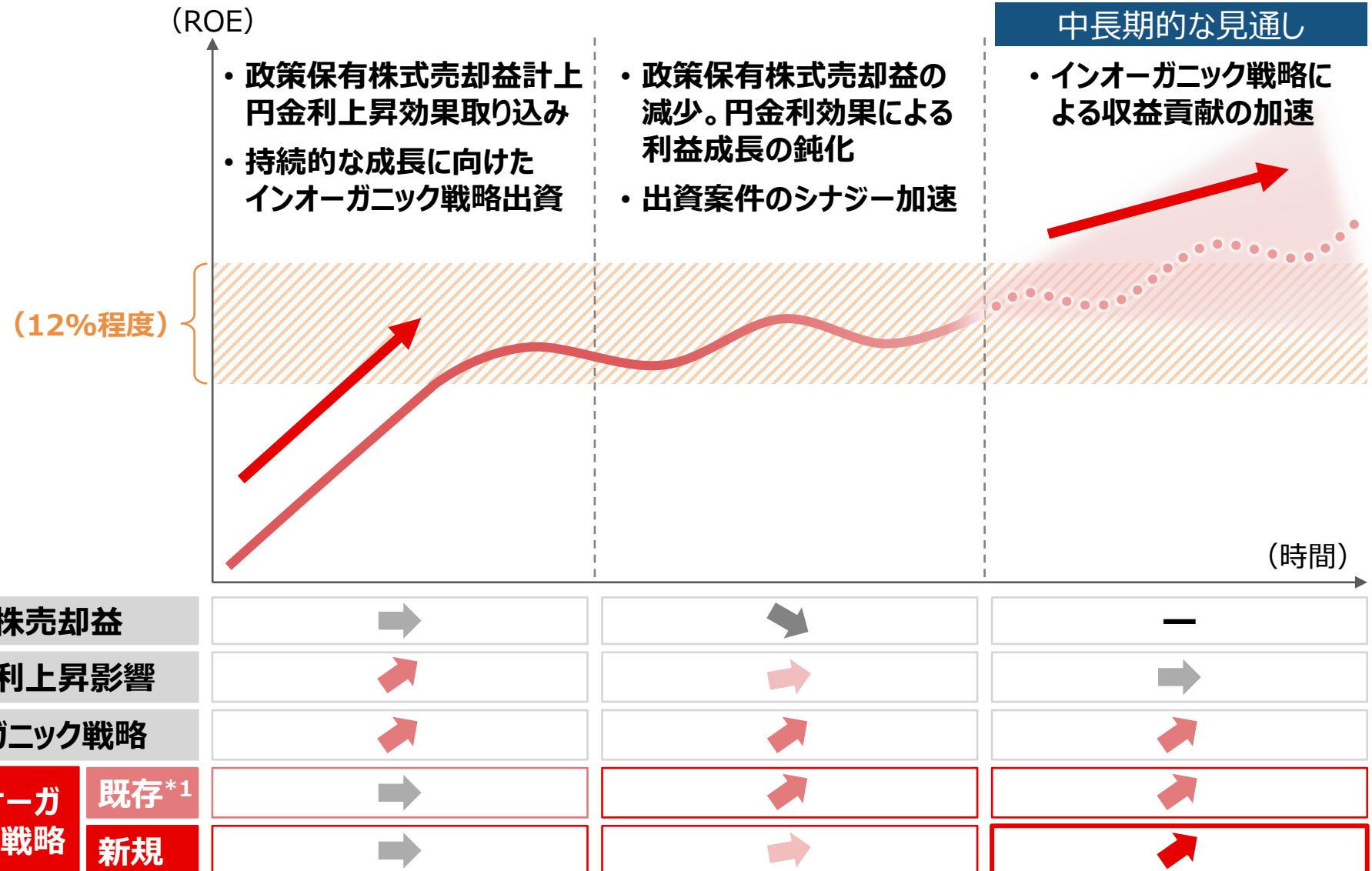


※ROE目標達成に必要な利益伸張の金額は、財務レバレッジの状況により変動

*1 無形資産償却前当期純利益ベース



中長期ROE目標12%程度へのイメージ



*1 パートナーバンクを除く、デジタル関連出資先

MUFGの株主になつたら

■「MUFGの株主になつたら」のキーワード



「約3倍」

株主還元

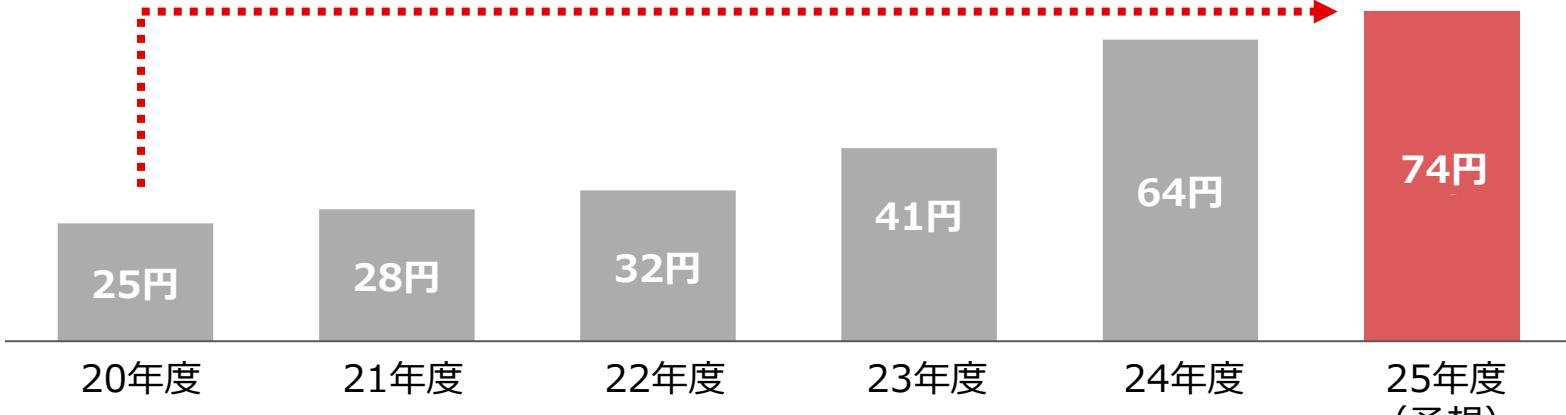
配当

74円予想
前年度比+10円
期初予想比+4円

自己株式取得

2,500億円を決議
25年度通年で5,000億円

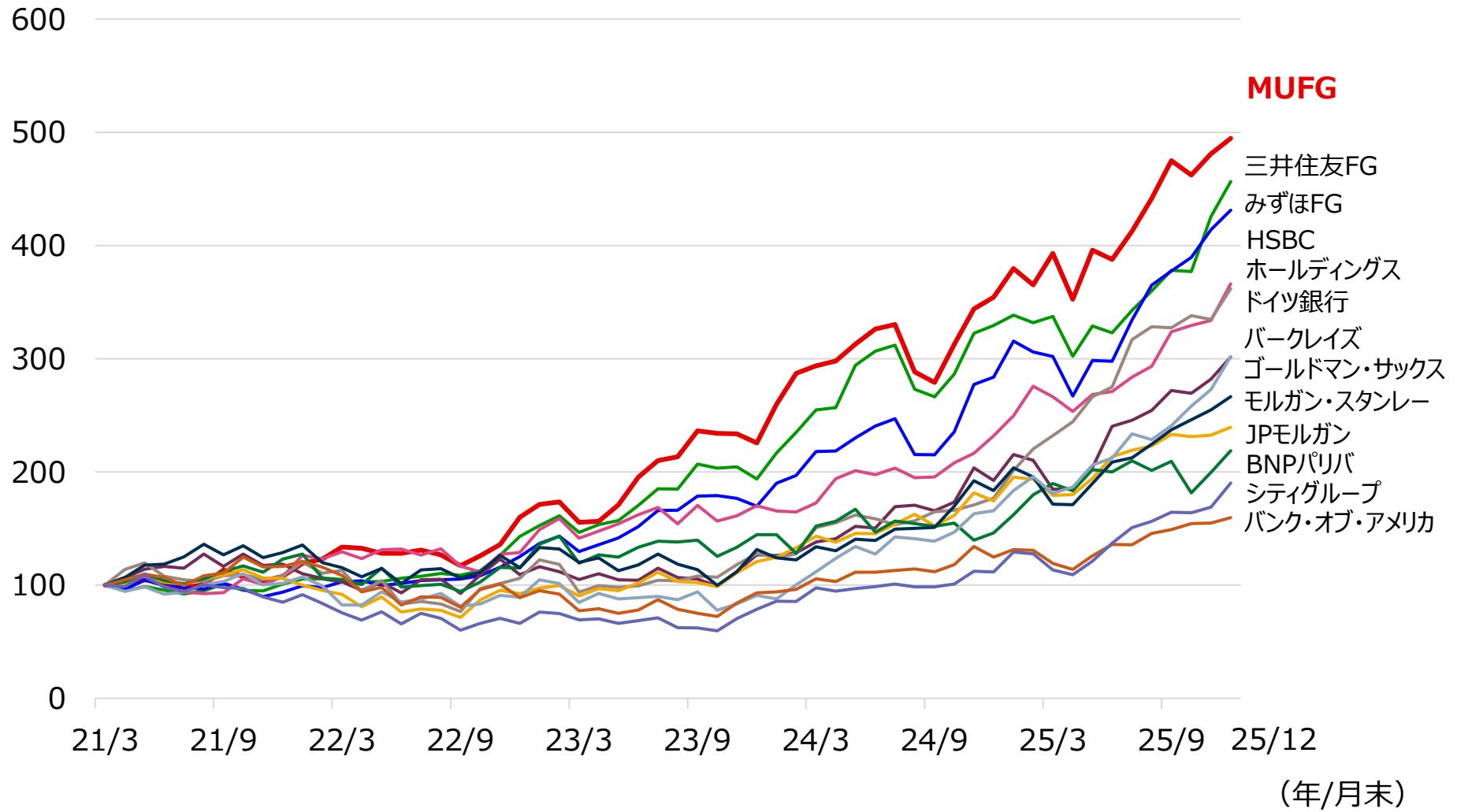
約3倍



	20年度 (億円)	21年度 (億円)	22年度 (億円)	23年度 (億円)	24年度 (億円)	25年度 (予想) (億円)
配当総額	3,218	3,571	3,900	4,880	7,420	8,440
自己株式取得額	-	1,500	4,500	4,000	4,000	5,000
総還元額	3,218	5,071	8,400	8,880	11,420	13,440
親会社株主純利益	7,770	11,308	11,164	14,907	18,629	21,000
総還元率	41.3%	44.8%	75.2%	59.6%	61.3%	64.0%
配当性向	40%程度	31.7%	35.3%	32.9%	40.0%	40.2%

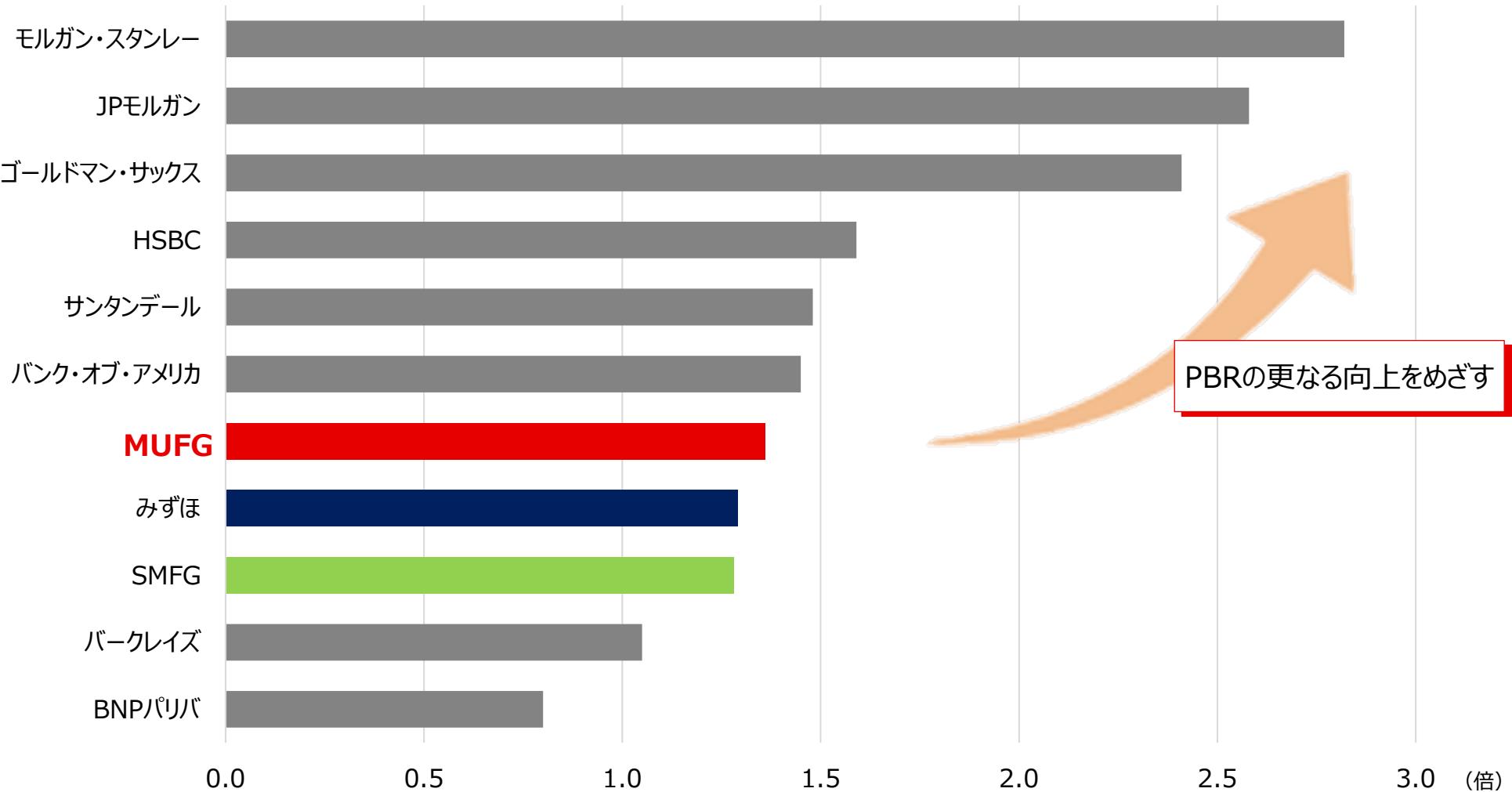
■ TSR (株主総利回り)

(2021年3月末の株価終値 = 100)



おわりに

競合他社のPBR*1



*1 2025年12月末時点（出所）Bloomberg

Appendix

アジアの出資先の成長

クルンシイ

(億円)



1,104

+9%

516

+2%

15年度

24年度

ヴィエティンバンク

(億円)



281

+18%

54

+6%

14年度

24年度

XX%

リターン^{*1} (CAGR)

XX%

実質GDP成長率^{*2} (CAGR)

ダナモン銀行

(億円)

274

+5%

211

+3%

19年度

24年度



セキュリティバンク

(億円)

68

+13%

26

+4%

16年度

24年度

*1 社内管理ベース。のれん・無形資産等償却前の当期純利益 + シナジー効果 *2 IMF資料より概算

株主価値向上に向けた取り組み

MUFGのさまざまな取り組み

着実な利益の成長

規律ある資本運営

収益力強化に向けた投資

業績ボラティリティの抑制

丁寧なIR活動

ROEの向上
中長期目標：
東証定義
ROE12%程度

EPS^{*1}の成長

成長期待の向上
競争優位性の訴求

資本コストの低下
期待収益率の引下げ

配当性向
(40%程度)

累進的な配当

株価の上昇

PER^{*2}の維持・向上

TSR^{*3}の最大化

*1 EPS (Earnings Per Share) :

1株当たり純利益 = 当期純利益 ÷ 発行済株式数

*2 PER (Price Earnings ratio) :

株価収益率 = 株価 ÷ EPS

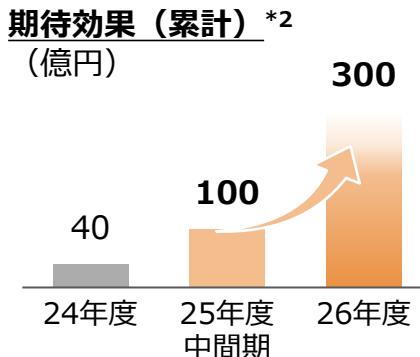
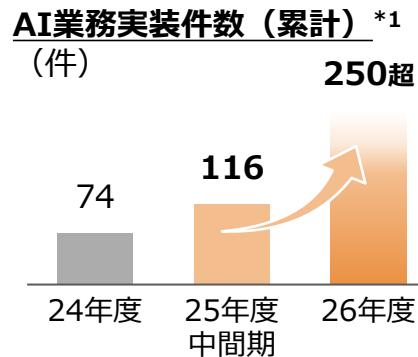
*3 TSR (Total Shareholder Return) :

株主総利回り = 株価上昇率 + 配当利回り

AIに関する取り組み

利活用促進

AI戦略の進捗



最先端技術

AIエージェントの活用

デジタル社員としての活用



Sakana AI
と共同開発

連携・出資

連携・出資の拡大

OpenAI社と戦略的なコラボレーションを開始

連携内容

AI-Nativeな
企業風土の醸成

戦略的な
ビジネスレビュー

新サービス案

OpenAIソリューションをMUFGに導入

MU エムット

革新的な
顧客体験

最先端の
AIテクノロジー

デジタルバンク等、様々なサービスに
OpenAIの最新のGPTを連携予定

AI研究開発企業への出資

- AI研究のトップランナー松尾研究
所からカーブアウトし、日本発AGI
開発をめざす
- 初のラウンドで三菱UFJ銀行が
リードインベスターとして出資

Third Intelligence

調達総額

80億円

*1 生成AI、機械学習、SaaS等を含めた数字

*2 今中計開始時を基準に、一定の前提およびロジックに基づき試算した財務効果（みなし効果を含む）。成長要因等は考慮せず、今後の環境変化や目標見直し等により変動の可能性あり

*3 コーポレートセンター

デジタルアセットへの取り組み

デジタル通貨・決済インフラ高度化

トークン化預金

Project Agora

- BIS / IIF^{*1}主導のクロスボーダー決済高度化に関する官民共同プロジェクトへ参画

ステーブルコイン

3メガ・三菱商事との 実証実験

- 複数行での共同SC発行と、それを用いた海外送金高度化に係る実証実験を開始（金融庁「FinTech実証実験ハブ」支援案件）

3メガバンク



三菱UFJ銀行



三菱商事



三菱UFJ信託銀行

prog//at

1:1 Reserve-backed Form of Digital Money

G-SIBsコンソーシアム

- 日米欧G-SIBsによるデジタル通貨発行に向けたコンソーシアムへ邦銀として唯一参画

参加銀行



Santander



BNP



Barclays



Deutsche



UBS



三菱UFJ銀行



GS、



Citi、



BofA

セキュリティトークン（ST）／アセットトークン化

不動産ST

受託残高拡大／ 新サービスリリース

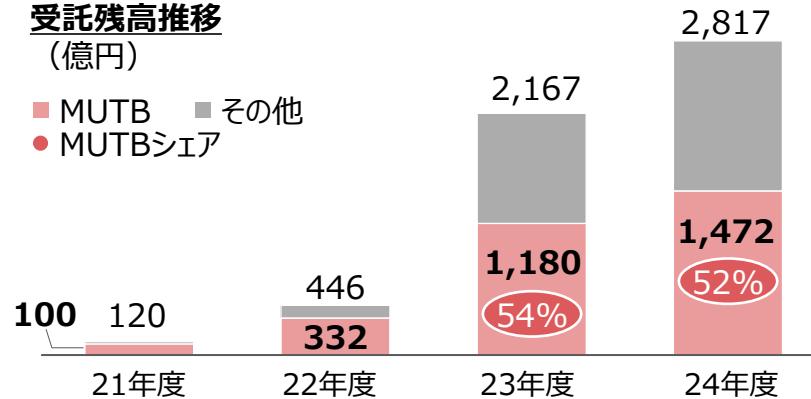
- ST発行に係る受託サービス

25年度も国内過去最大となる汐留シティセンターの共有持分
1,147億円^{*2}をMUTBが受託

受託残高推移

（億円）

- MUTB
- その他
- MUTBシェア



- スマホ完結型のデジタル証券取引サービス「ASTOMO」リリース



世界が進むチカラになる。

変化の速い時代、全てのステークホルダーが課題を乗り越え、
持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。
その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。

これが未来に向けて変わらない
MUFGの存在意義です。